

2004 年度（平成 16 年度）第 4 回常務理事会記録

日時：2004 年（平成 16 年）7 月 31 日（土）14：00～17：00

場所：東京大学医学部 2 号館（本館）南側地下カンファレンスルーム

出席者：廣川信隆（理事長）、河田光博、柴田洋三郎、高田邦昭、山科正平（以上常務理事）、依藤 宏（幹事）、小森雄一郎（学会事務センター）

・（財）日本学会事務センター不祥事に関する謝罪と説明

（財）日本学会事務センター寺尾繁美専務理事が出席し、学会事務センターの債務超過と学会よりの預り金の流用に関し、経緯の説明と謝罪がおこなわれ、学会の預り金を引き上げないように要請があった。しかし解剖学会に関しては既に預り金の一部を普通預金に移しており、その後支払い分があったのでこの時点で預り金はマイナスの状態であった。

・会議記録の確認

2004 年度第 3 回常務理事会記録（案）及び同摘録（案）

・報告事項

1. 庶務報告（高田庶務担当理事）

1) 会員異動報告（正会員 2,184 名 2004 年 6 月 30 日現在）

2004 年 5 月分 入会者 正会員 4 名 学生 4 名 賛助 4 社 退会者 正会員 6 名
学生 3 名 評議員 1 名 住所変更等 18 件

2004 年 6 月分 入会者 正会員 3 名 学生 4 名 賛助 7 社 退会者 正会員 7 名
住所変更等 22 件

2) 学会に届けられた文書等

通知等

a. 文部科学省より「平成 17 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞及び若手科学者賞受賞候補者の推薦について」（依頼）

その他、1 件の通知、1 件の挨拶状が届いている。

書籍、定期通信他

6 件の定期通信が届いている。

後援、協賛及び会告掲載依頼

a.（財）風戸研究奨励会より「平成 16 年度風戸研究奨励金及び風戸奨励賞公募について」（案内）……この件は学会 HP に掲載した。

その他、1 件の依頼が届いている。

3) その他

総会委任状提出状況

動物実験に関する提言（日本学術会議）について

学術会議で作成された「動物実験に対する社会的理解を促進するために（提言）」に解剖研連としても協力することが報告され、学術委員会で検討することとした。

ウラン廃棄に関する新聞報道について

朝日新聞に報道された廃棄冷蔵庫からウラン化合物の溶液が発見された記事について、昨年来懸案のウラン規制との関連で報告がおこなわれた。

第 110 回総会・全国学術集会準備状況報告

標記総会・全国学術集会の第 1 回プログラム委員会議事結果報告がおこなわれた。

文部科学省実地検査結果報告（この項は学会事務センター小森氏より報告）：無事終了した旨、報告があった。

2. 企画・渉外報告

1) 生物科学学会連合報告

第 11 回、第 12 回連絡会議の報告がおこなわれた。

3. 会計報告（山科会計担当理事）

1) 会計報告：7 月 30 日現在の会計状況の報告がなされた。なおこれにあわせて学会事務センターが保管中の解剖学会名義の通帳及びその残高、それに使用している印鑑等の確認がおこなわれた。

2) 賛助会員及び寄付募集状況（中間報告）

新規入会の賛助会員及び寄付の受入状況につき報告がおこなわれた。

. 審議事項

1. 2004 年（平成 16 年）度公認会計士委託

従来から会計監査を委託してきた宮内公認会計士の所属変更に伴い、本年度は小出公認会計士に依頼することになった。

2. 申請による学術評議員追加審査。

理事会における郵送による標記追加審査 1 件の開票がおこなわれ、可とするもの 16 票、否とするもの 1 票で、申請は承認されることが確認された。

3. 科研費審査委員候補「推薦委員会」編成

科研費審査委員の制度については先の見通しが不透明ではあるが、例年委員の推薦依頼が締切り直前になって来ることから、今年度は例年通りの準備を整えておくことになり「推薦委員会」を編成、その人選を進めることになった。

4. 2006 年（平成 18 年）、2007 年（平成 19 年）総会・全国学術集会開催校

標記について募集をおこなっていたところ、2006 年度については北里大学山科正平教授より、2007 年度については大阪大学遠山正彌教授より開催希望の意向が伝えられ審議の結果承認、理事会に諮ることになった。

5 . 次期「ASI」編集長

現編集長井出千東京大学教授より来年3月の定年に合わせて編集長を後任に引き継ぎたい旨、申し入れがあったが、雑誌の継続性の面も考慮し、常務理事会としては継続審議となった。

6 . 平成16年度総会・学術評議員会資料の確認

7 . 文部科学省よりの「化学物質過敏症に関する調査」について

標記に関するその後の動向および、今後の対策について検討がおこなわれた。

8 . 海外関連団体への対応

1) 「海外関連団体への対応に関する答申その2：APICAへの対応」が「海外関連団体に対する諮問委員会」より提出され、承認された。

2) IFAA Constitution 改正案に対する日本解剖学会の正式回答案が提出され承認された。また基礎生物学、生命科学分野における解剖学の重要性をアピールするために、第16回国際解剖学会議において“Declaration Kyoto 2004”を出すようを提案することが了承された。

9 . 次回常務理事会開催日程

10月2日(土)14:00より東大において開催されることになった。

(注)この予定は学会事務センターをめぐる情勢の変化から8月23日11:00より京都国際会議場内において開催されることに変更された。

10 . その他

地方会抄録に関して 理事会でも既に承認済みの地方会抄録1件につき掲載料2,000円とする件について、演題が減少するとの意見が寄せられた。これに対しては徴収方法は支部毎に検討して頂くことにすると結論に達した。

IFAAの解剖学用語国際委員会委員の瀬口教授からWhittmor委員長よりTerminologica Anatomica案についての意見聴取がきた旨連絡があった。この件については瀬口教授が中心になり、分野毎に分担して検討を実施して頂くことになった。

11 . 業務委託契約について(この件については学会事務センター小森氏の退席後、審議がおこなわれた。)

学会事務センター作成の来年度の業務委託契約の更新案が提出された。これに対し、学会事務センターの不祥事、経営状態から、他社に業務委託を移すことも含め審議がおこなわれた。